

発行:在日韓国民主統一連合（韓統連） 東京都新宿区北新宿１丁目 30-30-124
電話/FAX 03-4362-5284 メール chuo@korea-htr.org

韓統連ニュースレター（光復８０年 韓統連訪問団特集）

●韓統連・韓青が「光復８０年 ８．１５汎市民大会」に参加…民族自主・平和統一をアピール



韓国市民と共にソウル市内を行進する韓統連訪問団

韓統連と韓青は８月１４日から１６日にかけて、「光復８０年 ソウル平和市民大会 韓統連訪問団」を結成し、日韓平和連帯（西山直洋代表）、日韓民衆連帯などの連帯勢力と共に８月１５日に韓国・ソウルで開催された「光復８０年 平和 主権 歴史正義 実現 ８．１５汎市民大会」に参加した。

１４日には韓国進歩連帯、進歩党、民主労総、全国農民会総連盟、統一時代研究院、K I P F（コリア国際平和フォーラム）、自主

連合、平和統一市民会議、「統一の道」、６．１５市民合唱団、「ウリハッキョ市民の集い」、全大協同友会、全国民主同門会協議会が開催した歓迎交流会に参加。再会を喜びあった。

韓国側から歓迎あいさつ。進歩党のキム・ジェヨン常任代表は「進歩党は韓国の政党の中で唯一、民族自主と平和統一を目指す政党だ。そのために弾圧を受けてきたが、労働者・農民の力を基盤に、現在では党員１０

万、国会議員4人を擁する政党に成長した」
「海外で尹錫悦（ユン・ソンニョル）政権打倒のために共に闘った皆さんに、とても感謝している。これからも進歩党はさらに成長し、皆さんと共に自主と平和を勝ち取っていきたい」と語った。自主統一平和連帯のイ・ホンジョン常任代表議長は「光復80年は、植民地支配からの真の解放をもとめて闘った80年だ。解放後につくられた日米、韓米同盟は、現在も朝鮮半島に危機を招いている」と強調。「自主のない平和はない。光復80年を迎えた今年こそ植民地主義を克服し、反米自主、反戦平和の時代を築いていこう」と語った。韓国進歩連帯のハン・チュンモク常任共同代表は「韓国進歩連帯は非常戒厳令に対して市民とともに立ち上がり、見事勝利することができた。海外で共に闘ってきた同志たちに心から感謝したい」としながら、「革命はまだ完成していない。今日のこの場所が、『光の革命』の完遂とともに決意する場所となることを期待する」と語った。

宋世一（ソン・セイル）委員長（訪問団団長）があいさつ。歓迎に対して感謝しながら「韓統連は2023年5月に開催した光州民衆抗争記念全国集会から尹政権退陣を掲げ闘ったきた。わたしたちは尹錫悦罷免を勝ち取り、広場と野党の一体となった力で李在明（イ・ジェミョン）政権を誕生させた」
「大事なものは、広場の力をこれからも発揮することだ。明日の8.15汎市民大会で『平和 主権 歴史正義 実現』を声高く叫び、米国と日本の蛮行を阻止する闘いをはじめていこう」と語った。

15日は「美しい青年 全泰壹（チョンテイル）記念館」と「戦争と女性 人権博物館」を見学した。

8.15汎市民大会の会場であるソウル

南大門に移動し「統一ピビンバ」で夕食後、午後7時から同会場で汎市民大会に参加。韓統連と日韓平和連帯が主催者から紹介され、参加者から熱烈な歓迎を受けた。

イ・ホンジョン常任代表議長が主催者あいさつ。「朝鮮戦争停戦から72年、南北関係は同族関係から敵対関係に転落した。米国からの自主がなければ独立と解放、民主と民生、平和と統一、そのどれもが不可能だ」と強調。「植民地・分断・冷戦の歴史の真実と向きあい、米国の主権侵害に抵抗し、自主の時代を切り開いていこう」と訴えた。各界の代表が「光復80年 平和 主権 歴史正義 宣言」（後掲）を朗読。△米国に立ち向かい主権と平和を実現しよう△朝鮮半島の戦争危機を助長する敵対行為に反対し、平和のために闘おう△植民地支配と戦争犯罪を否定する日本に反対し、真実に基づいた謝罪と賠償を要求する△主権者として平和と主権のために行動し続けよう」と訴えた。

大会後、行進に出発、韓統連と日韓平和連帯は先頭で韓米合同軍事演習中止、米軍のアジアからの撤収、朝鮮半島の平和統一を訴えた。

16日午前自主統一平和連帯事務所で解団式を開催。宋世一委員長は訪問事業を振り返り△韓統連が「光の革命」の中で闘い抜き、現在も国内の市民と共に闘い続け、そして「光の革命」を完遂しなければならないことを確認した△大会で韓統連と日韓平和連帯が正式に紹介され、組織の位相が大いに高まったと評価。今後の課題として、反米自主運動を強力に推進することにより、朝鮮半島と東アジアの平和を実現し、さらには南北対話の再開へと統一情勢を決定的に発展させることをあげた。

ハン・チュンモク常任共同代表が連帯あいさつ。「韓国は現在、米国との全面的な対

決に入ろうとしている。対朝鮮敵視政策、韓米日軍事同盟に反対しなければならない。互いに成長しながら、より強い連帯をつくっていこう」「わたしにとって郭東儀(カク・トンイ)先生、金政夫(キム・チョンブ)先生は人生の師であり、進歩連帯は韓統連とともに闘ってきた。わたしたちは生涯の革命の同志だ。これからも統一の道、自主の道を共に歩んでいこう」と強調した。

各地方本部、韓青からの感想後、金隆司

(キム・ユンサ) 副委員長が閉会あいさつ。「今回の大会において、わたしたちはいま真の解放を迎えておらず、民族自主こそ、祖国統一の課題であることを韓国の同志たちとともに確認することができた。日本では右傾化が進行し、危険な状況だ。韓国の革命の力、市民の力をわたしたちが日本で発揮しなければならない。民族の先鋒隊として、これからもがんばっていこう」と語った。

●韓青が「第2回チンチャコリア」を開催…韓国の青年たちと交流



韓国の青年たちと歴史学習する韓青メンバー

韓青は8月16日、ソウル市内で「第2回チンチャコリア」を実施した。全国から参加した韓青青年と国内学生団体「ペ・ポンギの平和」のメンバーとともに、ソウル市内に残る日帝植民地統治時代の歴史史跡を訪れた。

午前3・1独立運動関連史跡として3・1大路や天道教中央大教堂、タプコル公園などを訪問。3・1独立運動に至る過程や独立運動の闘いについて学んだ。午後には大韓民国臨時政府記念館と西大門刑務所歴史館を訪問。自主統一平和連帯青年学生委員会のイ・ジェソン代表が解説した。

国内青年学生団体との交流会を開催。韓国青年連帯、進歩大学生ネットワーク、韓国

大学生進歩連帯の青年学生らと交流した。参加者からは「光復80年の節目に参加することができて本当に良かった。日本で共に活動する仲間にこの感動を伝えたい」などの感想が語られた。

15日は国会で韓青、ペ・ポンギの平和、青年進歩党が懇談会を開催。現行の在外投票制度の問題点について、韓青から進歩党のホン・ヒジン共同代表(青年進歩党代表)に伝え、論議した。その後韓統連訪問団と合流し「光復80年 平和 主権 歴史正義 実現 8.15汎市民大会」に参加した。



韓国青年たちとの交流会

【資料】光復80年 平和 主権 歴史正義 宣言

今日、わたしたちは弾劾広場の勝利の中で光復80年8.15を迎えました。12.3戒厳という史上初めての事態を克服したわたしたちは、抗日独立運動精神の真の継承者であり勝利者です。

80年前、わたしたちは日本の植民地支配から抜け出て解放を迎えました。しかし、真の解放はまだ完成されていません。分断と戦争、冷戦、軍事的従属と経済的不平等が入り乱れる歴史の中で、わたしたちの生活は完全に自由ではありませんでした。解放の喜びはすぐさま分断の苦痛へと、自主独立の熱望は強大国中心の覇権秩序に従属する悲劇へと続きました。戒厳の名分をつくるために戦争まで企画し、嫌悪と暴力を扇動してきた極右・内乱勢力は数十年間、分断・冷戦体制に寄生してきた勢力です。敵対と対決、嫌悪を強要してきた分断冷戦政治と体制の下で、民主主義がいつでも崩壊するというのを今回の内乱事態が示してくれました。

光復80年、内乱は防ぎましたが、内乱・外患勢力と分断・冷戦体制は依然として残っています。

近代史の試練と転換期のたびに、わたしたち民衆が発揮した勇気と献身は、光復80年の歴史を発展させてきた動力です。重ねられた抗争により民主主義と主権、平和と歴史正義を前進させてきたその力で、内乱勢力を防いだその力で、いま新しい未来へと進んでいかなければならないときです。

光復80年、分断冷戦をこえ自主と平和の新時代を開こうという決意で、わたしたちは次のように宣言します。

1. 内乱・外患犯罪を完全に清算し平和主権と歴史正義を正しく確立しましょう。

日帝植民地支配の清算と新しい社会の建設が挫折した後、樹立された分断冷戦体制は民主主義を抑圧し妨げただけでなく、対決と戦争危機を絶えず量産してきました。内乱勢力は分断冷戦体制を利用し違憲違法な非常戒厳と戦争まで誘導しましたし、分断冷戦体制の亡霊、国家保安法を動員した「反国家勢力」のレッテル貼りもためらいませんでした。内乱・外患犯罪を完全に清算し、その勢力の根を抜いてこそ、完全な過去の清算と平和を実現できます。光復80年の宿願、解放の完成は内乱・外患から始まるでしょう。

1. 米国の強圧と同盟収奪に抗し主権と平和を実現しましょう。

今日、世界はトランプ米政権の露骨な通商圧迫と安保威嚇に驚がくしています。「同盟」は武器購入と防衛費分担を強要する足かせとなり、米国の対中けん制戦略の中で駐韓米軍の役割変更が推進され、「同盟の近代化」という名の下に韓国軍の役割まで要求されながら、朝鮮半島が対中前哨基地に転落する危険に直面しています。主権国家ならば当然、享受すべき軍事・政治・経済的自律性は、脅威管理と費用分担という名分の下に絶えず損なわれていま

す。わたしたちは「同盟」という見かけの中に位置する韓米関係の屈辱的で悲惨な本質に向かい合っています。世界各国が全地球的な秩序変化に備える現在、米国の強圧的要求と同盟収奪に抗し、わたしたちの主権を守る道に共に進み出しましょう。

1. 朝鮮半島の戦争危機を助長する敵対行動に反対し平和のために闘いましょう。
南北関係、朝米関係の悪化と共に一層激化している朝鮮半島周辺の新冷戦対決は、二重三重の軍事危機を助長しています。朝鮮半島が再び強大国の政治の犠牲になり戦場となってしまうことがあってはなりません。このようなときであるほど、敵対と対決を止め、南北、朝米関係の改善に努力し、再び平和の道を探さなければなりません。軍事境界線地域の軍事訓練、韓米合同軍事演習を中止し、朝鮮半島と東アジアにおける戦争危機の解消、平和協定締結と平和体制樹立の扉を再び開かなければなりません。

1. 植民地支配と戦争犯罪の責任を否定し歪曲する日本とすべての歴史修正主義に反対し真実に基づく謝罪と賠償を求めます。
解放以後、清算されなかった植民地統治の遺産は光復80年となったいまも社会のあちこちに残っています。日本の歴史歪曲と植民地戦争の責任回避は今日の韓日関係の緊張はもちろん、新しい戦争の火種まで呼び起こしています。さらに、韓日間の過去の歴史問題がいまだ解決されていない状況で、韓日-韓米日の軍事同盟が推進されながら、加害国・日本の軍事再武装の道を被害国である韓国が開いてあげるざまとなっていました。わたしたちは強制動員第3者弁済と2015年日本軍「慰安婦」合意に反対し、今年60年を迎える韓日協定をただし、日本に植民地戦争犯罪の責任を問い、歴史正義をきちんと確立するために行動します。

1. 主権と平和を成し遂げる力は主権者であるわたしたち全員にあるという信念で途切れることなく行動していきましょう。
わたしたちは弾劾広場で時代の逆行を防ぎました。いま社会大改革の課題を実現していかなければなりません。長い分断冷戦体制を終わらせる道こそ自主と平和、民主主義をいかす道です。
この土地の主権はわたしたち全員にあります。主権を無視する同盟は同盟ではありません。いまこそ古い同盟秩序を果敢に振り払い、過去の抑圧と分断をこえ真の平和、主権、歴史正義が実現される時代を開かなければならないときです。
光復80年、自主と平和、民主と平等、歴史正義が花開く社会のために今日の宣言を行動に移していきましょう。

2025年8月15日

光復80年 平和 主権 歴史正義 実現 8. 15 汎市民大会

原文 <https://www.tongilnews.com/news/articleView.html?idxno=214236>

写真で見る「光復80年 ソウル平和市民大会 韓統連訪問団」



歓迎あいさつするイ・ホンジョン自主統一平和連帯常任代表議長



あいさつする宋世一委員長



歌手・川口まゆみさんが「アチムイスル（朝露）」を熱唱



握手する西山直洋代表（日韓平和連帯）とハン・チュンモク代表



全泰壹記念館



戦争と女性 人権博物館



統一ビビンバで夕食



進歩党のキム・ジェヨン常任代表と



汎市民大会に参加



ソウル市内を行進



解団式で感想を共有



韓統連・韓青が結集

光復80年 韓統連訪問団 感想文

神奈川本部 金承民（キム・スンミン） 事務局長



行進出発前に訪問団を撮影する金承民事

光復80年を迎える今年、祖国では「光の革命」を経て新しい大統領が誕生しました。これまでの革命がそうであったように、本当に重要なのは革命のその後です。これからの祖国の進む道を決定づける契機となるであろう光復節に参加しないという選択肢はありませんでした。民族の一員として、在日同胞として、そして韓統連の一員として。

8. 15をソウルで迎えるのは6年ぶりです。6年前は青年代表の立場でしたが、今回は韓統連代表団の事務局の一員としての参加です。いつの時も闘争の現場に臨む決意の高さは変わらないですが、緊張よりもワクワクした気持ちが上回る状態での代表团訪韓は本当に久しぶりでした。

訪韓団初参加の李眞希（イ・チニ）副代表や薛英子（ソル・ヨンジャ）先輩をはじめ、共に神奈川から参加した方がたくさんいたことも、そんな気持ちになれた大きな要因だったと思います。期間を通じて同じ志の仲間が横にいることは、本当にかげがえのないことだと感じました。

全泰壹（チョン・テイル）記念館の『炎よ、私をつつめ』を見て自然に涙が溢れたとき。ソウルの街なかで盃を交わすだけで嬉しかったとき。気がつけば極右集団の偽りの太極旗と星条旗を凄い目で睨みつけていたとき。じんわり熱いアスファルトの硬さを感じながら集会の熱気を胸いっぱい吸い込んだとき。規制線を突破した青年が走り出した瞬間に未来の希望を確信したとき。

瞬間瞬間に感じる言葉にしくなくても共有できている感覚、これを幸せと言わずになんと言いましょか。また、これこそが組織を強くし、社会を変革する力になることは間違いありません。神奈川の参加者と、そして韓統連訪問団全体と、そして祖国の同胞たちとこの感覚を共有できたこと、確認できたことが、忙しさにかまけて以前より実践から遠くなっていたわたしにとっては大きな成果でした。

また、個人的には事務局の一員として役割を持てたことも良かったことでした。といっても写真を撮るとのことぐらいでしたが、写真に写る参加者の充実した顔をたくさん見ることができたのは役得でした。本当に皆さん良い顔をしていて、韓統連が好きだし、祖国と民族が好きだし、いまを充実して生きていることが伝わってきました。

最後に課題、というかこうだったら良いなあということが一つ。今回、大会と行進で多くの旗がたなびき、とても感動的でした。あそこに韓統連の旗があればもっと素晴らしいし、あるべきだと感じているので、次回はぜひ我らの旗を堂々とたなびかせましょう。

訪問団、本当にスゴハシヨッスムニダ（お疲れ様でした）！ 神奈川に帰ってからがんばります。